

「東日本大震災避難者を含む子育て支援事業」 報告書

子育て支援拠点「子育てひろば なちゅはぐ」の取り組み

よりはぐプロジェクト

平成27年3月31日

平成26年9月9日、倉敷市南中学校区で、地域内および周辺地域のおおむね3歳以下の子どもと親、東日本大震災により倉敷市周辺に避難・移住してきた親子を対象として、子育ての孤立感を解消するために、子育て支援拠点「子育てひろば なちゅはぐ」を開設した。

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

Supported by Social Welfare Assistance Project (Welfare And Medical Service Agency)

目次

「子育てひろば なちゅはぐ」	2
1 開設の経緯	2
2 事業の実施方針、理念	2
3 利用状況	3
利用者アンケート結果	3
4 地域との連携	8
5 基本機能について	8
(1) 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進	8
(2) 子育て等に関する相談、援助の実施	8
(3) 地域の子育て関連情報の提供	8
(4) 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施	9
子育てミニ講座アンケート結果	9
6 地域支援について	12
7 PRについて	12
8 支援の質の向上について	13
9 運営全般について	14
10 東日本大震災による避難者支援活動	14
避難者アンケート結果	14
11 実行委員よりコメント	17
12 よりはぐプロジェクトのあゆみ	19
(資料) なちゅはぐレター	

「子育てひろば なちゅはぐ」は、倉敷市南中学校区における子育て支援拠点

①活動目的

子育ての孤立感を解消するために、

※倉敷市内で常設の子育て支援拠点のない南中学校区で開設

②開催日 週3日

③場 所 倉敷市南中学校区内の借上げ民家

- ### ④対象者
- ・地域内および周辺地域のおおむね3歳以下の子どもと親
 - ・東日本大震災により倉敷市周辺に避難・移住してきた親子

⑤基本機能 ア 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

イ 子育て等に関する相談、援助の実施

ウ 地域の子育て関連情報の提供

エ 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施



1 開設の経緯

- ・避難者・地域の方両者との関係作りが必要になってきている。
- ・南中学校区には、避難者も多い。また、転入世帯が多く、避難者と同じような状況・悩みを抱えている。
- ・南中学校区は、子育て支援拠点がない学区である。
- ・月1回、避難者交流会などを開催してきたが、リアルタイムの悩みや相談に対応することは難しく、メンバーも固定化してしまう。一人でも、知り合いがいなくても、気兼ねなく行ける場所が日常にできることが大きな支えになる。

⇒子育てひろば事業を企画し、独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業に応募、採択、平成26年9月9日開設。

(参照) 12 よりはぐプロジェクトのあゆみ

2 事業の実施方針、理念

よりはぐプロジェクト 活動の目的

子どもたちとすべての命が健やかに育つために、
寄りそい、ともにはぐくむ地域づくり。

子育てひろば なちゅはぐ 方針

食や日々の暮らし、地域の方との顔の見える関係を大切に、
自然体で子育てができるよう、親子を応援する。
様々な持ち味のスタッフの特性を活かし、
そこに行けば誰かがいる、話ができる、ほっとする、
そして元気が出る場所でありたい。

3 利用状況

利用登録している家庭数 72 組（世帯） 避難者利用家庭数 18 組（世帯）

	開所日数	実利用家庭数（組）	延べ利用者数
9月	4日	11組（新規11組）	29人
10月	14日	33組（新規22組）	155人
11月	12日	27組（新規7組）	154人
12月	14日	37組（新規18組）	156人
1月	12日	26組（新規6組）	159人
2月	11日	29組（新規8組）	176人
3月	12日	31組（新規7組）	178人

利用者アンケート結果 回答 15名

1. お住まいはどこですか？

沖新町	7名	46%
四十瀬	4名	26%
上富井	2名	13%
田ノ上	1名	6%
老松町	1名	6%

2. ご家族は？

核家族	15名	100%
-----	-----	------

3. お住まいは？

賃貸	15名	100%
----	-----	------

4. なちゅはぐの利用頻度は？

ほぼ毎日	5名	33%
週1回程度	6名	40%
月2～3回	4名	26%
月1回	名	0%
2～3か月に1回	名	0%

5. なちゅはぐの満足度は？

とても満足	12名	80%
満足	3名	20%
やや不満	名	0%
不満	名	0%

<とても満足と答えた方の意見>

環境について

- ・木のおもちゃがたくさんある 4名
- ・アットホームな雰囲気ですついで足を運んでしまう 2名
- ・季節の行事がある 2名
- ・おもちゃや絵本、イベントも豊富、毎月の予定表が楽しみ 2名
- ・こじんまりしていて、他のお母さんとも話しやすい 2名
- ・子どもの成長を身内以外で見守ってもらえていると実感している
- ・我が子をほめてくれることで自分にとってうれしいものだと改めて気づいた
- ・なちゅはぐを通してママ友も子どもの友達もできたこと
- ・ステキな場所に巡りあえた
- ・お友達に会えて子どももとても楽しそう
- ・室内のおもちゃでも遊べるし、公園にもすぐに行ける。
- ・清潔感のある施設
- ・子どもを安心して遊ばせることができる

スタッフについて

- ・外遊びをスタッフも一緒にしてくれる 2名
- ・スタッフの方々が明るくて優しく親切 2名
- ・温かく迎えてくれる 2名
- ・スタッフの方々が親身に話を聞いてくれ、心の拠り所になっている
- ・子どもとも一緒に遊んでくれるので、親も子も楽しい時間が過ごせる
- ・悩みを話しやすい

<満足と答えた方の意見>

環境について

- ・公園で同じ歳の子供と遊べるから
- ・木のおもちゃが揃っている
- ・近くに公園があり、外遊びもできるから

スタッフについて

- ・いつも温かく迎えてくれ、子どもも大好きな場所になっている
- ・親切

6. なちゅはぐはあなた・お子さまにとってどんな場所ですか？

- ・子どもにとって月齢の近い友達と遊べる場、社会生活を学ぶ第一歩になっている 2名

- ・笑顔が増える場所
- ・癒し・・・ちょっとした疑問でも先輩ママの話が聞けて嬉しい
- ・ふれあい・・・子どもにとっていろいろな年代の他の子に会えてとてもよかった
- ・情報交換の場・・・引っ越してきたばかりだったので、色々教えてもらい助かった
- ・親にとってスタッフやママ達と話して子育てのアドバイスをもらったり、不安を聞いてもらったり安心できる場所・心の拠り所
- ・息抜きのできる場所
- ・友達と仲良く一緒に遊ぶことや、四季折々の行事、大人たち（スタッフや親同士）の触れ合いを通して、家庭の中では学べないことを教えてあげられる場
- ・年齢や近い子や大きい子、色々な子どもと触れ合える場所。
- ・くつろげる場所
- ・同年代の子ども同士で安心して触れ合える場
- ・たくさんのお子さんとお母さんと交流できる場所
- ・楽しい場所
- ・親にとっては色々な方とお話しができ、リフレッシュできる場
- ・引っ越してきたばかりで、いろいろ教えてもらえる場
- ・子どももみんなと仲良く遊んでいるので安心できる場
- ・ゆったりした気持ちで遊べる場
- ・幼稚園や保育園へのステップ前に準備運動ができる場
- ・学びと遊びが楽しんでできる場

7. なちゅはぐに来る前と来てからで、子育てや暮らしに何か変化がありましたか？

あった	12名	80%
なし	3名	20%

<あった方の意見>

- ・悩みを話し合える仲間ができたこと
- ・友達ができたから、家の近くの公園よりなちゅはぐの前の公園に行きたがる
- ・たくさん友達ができた 2名
- ・二人だけの時間が減った
- ・話をすることで、いい気分転換ができるようになった
- ・相談できる人や仲間が増えたこと
- ・何より子どもに同月齢の同性のお友達ができたことが嬉しい！！
- ・外に出て気分転換できる場所ができた
- ・良い息抜きになって、気持ちが楽になったこと
- ・語りかけや、一緒に遊んであげることが増えた
- ・なちゅはぐで知った手遊びを家でもするようになった
- ・顔見知りも増え、私自身も他の人と話すことが増えたので気持ちにゆとりができた
- ・二人っきりでいることが減ったので、笑顔が増えた
- ・生活のリズムが整ってきました（午前中なちゅはぐでしっかり遊び、午後お昼寝をたくさんす

る)

- ・メリハリがついた
- ・子どもの話せる言葉が増えた
- ・一人で悩んでいたこともたくさんあったが、なちゅはぐに行くようになって一人で抱え込まないで話せるようになった
- ・子育てが楽しくできるようになった
- ・子どもが活発になった

<なしの方の意見>

- ・まだ2回目なので、特に変化はないがこれから社会性がついたり、色々成長してくれたらいいなと思う

回答 13名

8. なちゅはぐが来年度以降も継続することを希望されますか？

強く希望	11名	85%
希望	2名	15%
どちらでも		
希望しない		

<強く希望する方の意見>

- ・子どもが安心して遊べる場所がたくさんないので、なちゅはぐはありがたい場所です。
- ・沖新町近くに徒歩で行ける児童館がないので、継続して欲しい。
- ・親子ともに遊びに行くのを楽しみにしている。
- ・月齢を重ねるごとにできることが増え、もっと娘といろいろな体験をなちゅはぐを通してみんな体験していきたい。
- ・毎週来ていて顔馴染みの方々もできたので、会えなくなるのはさみしい。
- ・なちゅはぐは心の拠り所のような存在です。
- ・車がなく、近所で子どもを遊ばせるところもなく、困っていたところになちゅはぐと出会った。
- ・色々な子どもたちと遊んだり、おもちゃも充実しているので、来年以降も継続してほしい。
- ・キッズスペースのような場所は他にもたくさんあるが、スタッフの方をはじめ、どの親子のみなさんもアットホームに過ごしているのでとても通しやすい。
- ・今までこんなにも毎日行きたいと思える施設はなかった。
- ・絶対！絶対、継続！を希望します。多くのママさんと子どもにとって、なちゅはぐはなくてはならない場所だと思います。
- ・ママの子どもと二人だけで一日中家にいると『今日、大人と話してない・・・』なんて日もあったりしたが、なちゅはぐにくるようになり精神的にも助かりました。
- ・なくなると困る、とてもさみしい・考えられない
- ・歩いてこられる場所で、雰囲気がよく来やすいから。

<希望する方の意見>

- ・子どもが友達と遊ぶことができるから。
- ・気軽に来られて、アットホームな感じだから。

9. 子育てするなら倉敷で！ と言えるためには、何が必要だと思いますか？

- ・子どもが自由に安心遊べる場所（なちゅはぐのような）・ふれあえる場所がたくさんあるあこと（無料だといいい） 5名
- ・補助や手当が多い（例：おむつが外れるまでおむつ代を支給してくれる自治体もあるらしい） 2名
- ・医療費無料
- ・女性が働きながら子どもを育てることのできる環境がもっと増えればいい
- ・母親が息抜きできる場があること
- ・保育所の増設や定員の増加
- ・お母さん達が安心して預けられる一時保育の施設
- ・地域ぐるみでの見守りの目
- ・バスの運行時間の充実
- ・防犯カメラ
- ・児童館が少ないので、小学校区に1つ児童館が欲しい
- ・保育所や託児所が気軽に利用できる仕組み

10. なちゅはぐに今後望むことは？

- ・託児（一時保育） 4名
- ・今まで通りアットホームな場所であって欲しい・充分ありがたい 3名
- ・子育て講座があったら参加したい
- ・夏期は5時くらいまで開いていると助かる
- ・音楽を流してほしい
- ・時間の延長（16：00まで）
- ・リトミック
- ・平日週5日開いていたらもっと嬉しい
- ・外でのイベント
- ・パパが気軽に来られるイベント（パパも来やすい場所だったらいい）

11. 最後に何かご意見・ご感想等をお願いします。

- ・これからもよろしくをお願いします。 4名
- ・近くで歩いてこられるので利用しやすい。
- ・いつも寄りそってくれてありがとうございます。とても救われています。
- ・スタッフのみなさま、いつも本当にありがとうございます。ここに書ききれないほど感謝・感謝でいっぱいです。
- ・私も娘もなちゅはぐが大好きです。引越しですが、最後の日まで利用したいと思います。
- ・このように落ち着けるスペースは他にはありません。いつもありがとうございます。
- ・なちゅはぐは私や子どもにとって、とても楽しくて遊びながら学べる場所です。

- ・来年度からもなちゅはぐで遊びたいです。今まで通っていてほしいです。
- ・転勤で倉敷へ来て、心細い思いをしていたところでした。なちゅはぐにととても魅了を感じています。
- ・遊びにくるのを親子ともに楽しみにしています。月曜も開いているとうれしいな・・
- ・公園とかとは違い、子どもとほっとできるなしゅはぐがあつて、本当に助かっています。
- ・他の親子と遊んだり、話したりすることのできる大切な場所です。
- ・もっと利用できる日にちが増えればありがたいです。

4 地域との連携

ぴよぴよクラブ（0～2歳児）、小菊会（3～4歳児）の情報提供
子育てサロンふわりん、三菱自工中島社宅のサロンへの協力

5 基本機能について

（1）子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

- ア** 子育て親子が気軽にかつ自由に利用できるようにするため、気をつけた点、工夫したこと
- ・子どもが落ち着いて遊べ、親子が安心できるように、自然素材を中心としたおもちゃや年齢に合わせた絵本の選定をした。
 - ・子どもが安心して遊べることで、子ども同士、親同士の交流ができるように、子どもの遊びに寄り添った。
 - ・おもちゃの数や大きさを工夫して、子どもたちの遊びを親たちで見守ることができるようにした。
 - ・子ども同士の喧嘩やちょっとしたトラブルにおいて、子どもの気持ちに寄り添いながら、発達段階の特徴を親に伝え、被害者・加害者のような関係を作らないようにした。
 - ・小さい子どもと大きい子どもが利用するため、隣接する公園での外遊び時間を設けることで安全面だけでなく、子どもも親も自由に気分転換に行き来できるようにした。
 - ・昼食を持参すれば、お昼時間に親子で一緒に食事しながら交流できるようにした。
- イ** 来訪した子育て家庭間の交流を深めるため、気をつけた点、工夫したこと
- ・子どもの名札の色分けをすることで、見てすぐに年齢が分かるようにした。また、小学校区を名札に記入することで、共通の話題から交流が深められるよう工夫した。月齢が近かったり、共通事項のある親子同士を積極的に紹介した。

（2）子育て等に関する相談、援助の実施

子育てに不安や悩みなどをもっている子育て親子に対する相談、援助を実施するにあたり、気をつけた点、工夫したこと

お母さんがちょっとした相談でも気軽にできるように、日頃から積極的に話をして信頼関係構築を心がけた。相談を受けた際は、傾聴し共感の姿勢で接するとともに、難しい内容に関しては、専門家や有識者のアドバイスを聞いたり、つなぐようにした。

（3）地域の子育て関連情報の提供

ア 子育て親子が必要とする身近な地域の子育てに関する情報として、どのような情報を親子に提供したか

- ・転勤や近くに親戚もいない家族が多いため、一時預かりなどの情報提供を行った。

- ・地域の親子クラブ（小菊会・ぴよぴよクラブ・ふわりんなど）のチラシを掲示板に常時掲示した。
- ・お母さんの声から始まったロコミノートを作成し、地域の情報（小児科や遊び場、イベントなど）を共有できるようにした。

イ 上記のような情報を集めるにあたり、気をつけた点、工夫したこと

一方的な情報にならないよう、スタッフも積極的に参加するようにし、雰囲気や様子を伝えられるようにした。

（４）子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

- ・子どもへの暴力防止プログラムCAPおかやま代表の山下明美さんによる3回連続講座
 - 1回目 テーマ「いやいやって、もーいや」 参加親子7組
 - 2回目 テーマ「男らしさ、女らしさとは・・・」 参加親子11組
 - 3回目 テーマ「リフレーミング」 参加親子5組名

子育てミニ講座アンケート結果

【10月30日 子育て講座 第1回目】回答：7名

1. 本日の講座を受けてどうでしたか？

- ・最後の紙にみなさんのよい所を書くのがとっても嬉しかった。涙が出ました。
- ・心のモヤモヤがとれ、スッキリしました。イヤイヤを受け入れて、何がイヤなのかを考えて、子どもの気持ちをくみ取れるようになりたい。
- ・気持ちが楽になりました。講師や同じ年齢のお母さん達の話聞いて、自分だけじゃないんだなあと安心しました。機会があれば、また参加したいです。
- ・子どもの気持ちを代弁してあげるとよいことが印象に残った。ゲーム感覚で楽しくできた。
- ・みんな同じような悩みを抱えているんだなあと思って、少し安心した。
- ・相談ののってもらえたり、みんなで楽しめたり心が軽くなりうれしいです。
- ・泣きたいとき、声を出すことが大切というのが印象に残りました。

2. 子育て、どうですか？

楽しい（3名）まあ楽しい（3名）なんとも言えない 少しいらい（1名）つらい

《楽しいの意見》

- ・イヤイヤ大変なこともあるけれど、かわいい！！
- ・自分のこと以上にこんなに思える存在ができている幸せ。
- ・子どもと一緒に新しい発見があったりして一緒に思いっきり遊んだり楽しいです。

《まあ楽しいの意見》

- ・まあ大変・・・だけど、成長が嬉しいし、楽しいことが多いから。
- ・家にいるとお互いストレスたまるので、なるべく午前中はでかけたいなあと思ってます。

《少しいらいの意見》

- ・思う通りにいかないことが多くて少しいらいです。自分の気のもちようだど思うのですが・・・

3. 子育てをされていて、悩みはなんですか？

- ・好き嫌いがある
- ・人見知りをする
- ・幼稚園に入ってから心配

- ・全てにおいて悩みだらけ・・・
- ・トイレトレーニング
- ・歯磨きをするとき、泣いて暴れ出すこと・させてくれない 2名
- ・オムツをかえさせてくれない
- ・突然イヤイヤが始まる
- ・食いしん坊すぎてご飯の準備中に泣いて怒って待てないのがつらい
- ・恥ずかしがり屋で外でなかなかお友達と遊べない

4. 今後どんな講座を受けてみたいですか？

- ・食事のこと
- ・遊びについて
- ・歯磨きについて
- ・3歳以上の子育てについて
- ・子育てに関するもの（年齢に合わせた悩みなど・・・）
- ・しつけについて
- ・1人目と2人目の兼ね合い 2名

5. なちゅはぐでこんなことをしてみたい！してほしい！どんなことでも。

- ・3歳くらいのちょっと大きめの子の対象のイベント。
- ・なちゅはぐを知ってから、毎週火・水・木曜日が楽しみになっています。
- ・公園遊びでの企画があったら参加してみたい。
- ・スタッフのみなさん、いつも優しく接してくれてありがとうございます。
- ・いつも優しく遊んでもらってありがとうございます。
- ・同月齢の集まり、みんなで工場見学などお出かけ、ベビーマッサージ、子ども・妊娠中でも使えるアロマ、リトミックなど

【11月13日 子育て講座 第2回目】回答：11名

1. 本日の講座を受けてどうでしたか？

- ・イライラしたら一旦子どもから離れて、冷静になろうと思いました。
- ・好きな色やおもちゃでは個性がわからないので、個人差や個性を大切にしたいと思います。
- ・子どもに気持ちをぶつけてもいいんだと思いました。
- ・自分の価値観の中に男女の区別がはっきりしていることが改めてわかった。子どもの個性を大切にしたいと思う。
- ・Iメッセージ、これからもっと積極的に使ってみようと思いました。
- ・普段見えにくい裏側を意識する・気づく事・みること・個人を個をもっとみて尊重すること
- ・Iメッセージは印象です。本気の気持ちで頼んで願います、声を大切にすること
- ・子どもにばかり求めている自分がいて、子どもは自分の鏡と思って自分の行動こそ普段かた気を付けたいと思いました。男らしさではなく、自分らしさ・その子らしさ（個性）を大事にしたい。
- ・気持ちに寄り添うこと。悲しいとき、こうしてほしいとき、どんな気持ちなのかを考えて言葉かけをしたい
- ・『男らしさ・女らしさ』は今まで意識して考えたことはなかったけれど、自分の中で思い込んでいることが多いことを改めて知りました。
- ・子どもを叱るときに、子どもの気持ちよりも周りの親の目を気にしている私がとても悲し

く思えて、反省しました。どうしても自分の気持ちを肯定してあげられない自分に反省。

2. 子育てどう感じていますか？

たのしい（4名）まあたのしい（5名）なんとも言えない（1名）少しつらい（1名）つらい

《楽しいの意見》

- ・自分の子どもとの関わりはとても楽しいけれど、他の子どもと関わるのがどうも苦手ですつらい。
- ・楽しいけれど、しんどいこともたくさん。
- ・楽しいですが、常にどうしたらいいのか悩みもあります。

《まあ楽しいの意見》

- ・自分の気持ちが伝わらないことが多くてイライラすることもあるけれど・・・我が子の成長をみるのは楽しい。
- ・今しかできない親子でできることを楽しんでいる。ありがたいって思っています。
- ・毎日忙しすぎて大変ですが、ちゃんと講座をきくと幸せだなと感じる。

《なんとも言えないの意見》

- ・楽しくもあり、苦しくもあり、つらくもあり、うれしくもありの日々です。

《少しつらいの意見》

- ・気づくとクドクド言ってしまう。それが息子に対してよくないのを分かっているのに、抑えられない。

3. 子育てをされていて、悩みはなんですか？

- ・マタニティブルーになったときの対応
- ・人に興味があるけれど、人に向って怒ったように泣き叫ぶ
- ・寝ない子だったので、ノイローゼ気味になった
- ・野菜嫌いなこと
- ・怒りにまかせてしまっていること（自分）
- ・上の子が少し攻撃的でどう接するのが難しい。私がすぐ感情的になってしまうのが一番の悩み。
- ・ちゅっちゅ食べ 食べ物を吸いながら食べて時間がかかること。
- ・周りの目が気になる。頭では分かっているけど変に思われたくないから、その場に合わせるふるまってしまう。
- ・母親との葛藤（今までの育ち）
- ・やりたいことをやらせてあげたいけれど、我がままに育ちそうで加減がわからない。
- ・長男を一番叱ってしまうので、3人の子どもをどんな配分で気持ちをくんでやるか。
- ・気持ちに寄り添うより先に自分の感情が先に立ってしまいます。ダメな親だと思ってしまう。

4. 今後、どんなテーマの講座を受けてみたいですか？

- ・家の中で遊ぶこと（昔ながらの玩具・手遊び・工作など）
- ・どういう声かけをしたらいいのか、気持ちに寄り添うにはどうしたらいいのか。
- ・『なんで？』『どうして？』が口癖の3歳の娘にどう答えてあげるといいのかを知りたい。
- ・長男が怒りっぽいので、その怒りをどう受け止め鎮めてあげたらいいのかを知りたい。
- ・子どもの習い事について
- ・リフレーミング
- ・具体的にやってみる（実践できる）ような講座

5. なちゅはぐでこんなことをしてみたい！してほしい！どんなことでも。
- ・たまにでいいので車でいけるイベント（どこかの公園やレジャー施設など）
 - ・親が気軽に発言できるこの場所がとても大切です。是非続けてたくさんの方の心と触れ合いたいです。
 - ・いつもありがとうございます。

【12月10日 子育て講座 第3回目】回答：3名

1. 本日の講座を受けてどうでしたか？
- ・子ども気持ちに寄り添うこと！！
親にとってのいい子ではなく、子どものやりたいことを尊重しようと思った。
 - ・捉え方によっていろいろな感じ方があるって自分の気持ちもポジティブな方向にもっていけるようにできるのだなあと思った。
 - ・自分の子のマイナスに感じているところも、考え方を変わるとプラスに感じる事ができる。
2. 子育てをしていてしんどかった時期はいつですか？どんなことですか？
- ・イヤイヤ期が始まったとき。何をしてもイヤと言われ、落ち込んだ。
 - ・生まれて最初の頃。おっぱいもなかなか出ないし、体も痛いし、抱っこしても泣き止まないし、夜も寝ないし・・・
 - ・やらなくてはいけないこともたくさんあるのに、泣いてぐずって手が付けられない時。毎日がしんどいと感じるけれど、あとから思えばあの時は楽だったなと思う。
3. 子育てをしていて幸せを感じる時はどんなときですか？
- ・笑顔を見せてくれるとき
 - ・笑顔で抱きついてきてくれるとき
 - ・できなかったことができるようになっていたことを見たとき
 - ・ママ大好きだよ！って言うとき
4. 最後に一言
- ・いつもありがとうございます。親子で楽しい時間を過ごしています。
 - ・いつも悩みを聞いていただいて、ありがとうございます。とてもスッキリします。
 - ・みんな講座で悩みがすっかり解消して帰っています。ありがとうございます。

6 地域支援について

地域全体で、子どもの育ち・親の育ちを支援するため、継続的に実施した地域支援と、実施にあたり気をつけた点、工夫したこと

- ・備中県民局の協働事業提案募集採択事業として「地元の食材を使ったお料理広場による子育て応援事業」を、ほぼ毎月、倉敷南公民館で実施し、地域の中からボランティアとして託児のお手伝いをしていただいた。参加していただく前に、現在の子育てを取り巻く環境の変化や親子の状況などについて情報提供すると共に、上記5（4）の講師の山下明美さんを招き、親子が安心できる関わり方についてお話しをしていただいた。

7 PRについて

認知度を向上させるために行ったことと、PRにあたり気をつけた点、工夫したこと

- ・開設時、愛育委員さんを通じて、南中学校区内の全地区の回覧版に、オープンチラシを入れていただいた。

- ・毎月、周辺地域になちゅはぐレターをポスティング。子ども乗せ自転車やベビーカーなどがある、子育て世帯の家庭に届くよう気をつけた。
- ・お買い物途中の親子、公園で遊んでいる親子・妊婦さんに直接声をかけて、チラシを渡すとともにお話しをして利用を促した。
- ・毎月、子育てサロンぴよぴよクラブ、ふわりん、三菱自工社宅の集会所サロンで、なちゅはぐレターを配布していただいた。
- ・岡山県を通じて、震災の避難者登録をしている約 400 世帯になちゅはぐレターを送っていただいた。
- ・定期的に Facebook になちゅはぐレターやイベント情報を掲載した。

8 支援の質の向上について

ア (スタッフの) 支援者としての資質、専門性の向上を図るため参加した外部研修

- ①備前市地域子育て支援拠点事業「わくわくる一む」見学 参加 3 名
- ②おかやま地域子育て支援拠点エンパワメント事業「地域子育て支援拠点等従事者養成講座」参加 1 名
- ③倉敷市子育てボランティア入門講座『子どもの発達と安全管理』 参加 2 名
- ④倉敷市保健所主催『感染症対策研修会<小児編>』 参加 1 名
- ⑤備前県民局ももっこステーション活動支援事業『様々な相談活動カウンセリングマインドを学ぶ』 参加 1 名

イ 上記アの参加により、活動内容の見直しなど、改善につながった事例と内容

- ①②拠点開設にあたり、基本機能、環境整備、スタッフの役割について、検討する上で役に立った。
- ③スタッフミーティングで共有し、安全管理の意識が高まった。また、事故にならなくても危なかったことは日誌に記入して改善した。出入り口の階段の幅を変更する、ぶつかりそうな場所にケガ防止のクッションをつけるなどを行った。
- ④スタッフミーティングで共有し、スタッフ、利用者とも、入室するときには、必ず手洗いをすることになっている。また、感染症の吐物処理の道具を一式そろえ、すぐに出せる場所に設置し、処理マニュアルを貼っている。
- ⑤スタッフミーティングでポイントを共有し、相談対応に活かしていく。

ウ 上記アのほか、支援の“質”を向上させるため、どのようなことを行いましたか？

- ・外部専門家で実行委員会を組織し、ほぼ毎月、実績と課題を報告し、改善のためのアドバイスをいただいている。
- ・木戸啓子先生（倉敷市立短期大学保育学科）を講師にお招きして、子育て支援拠点とスタッフの役割について、基礎研修を行った。
- ・開所前に、『地域子育て支援拠点ガイドラインの手引き』を少しずつ読み合わせて、意見交換をしている。
- ・閉所後に、当日の様子や気になったことを日誌に記入し、共有し、必要に応じ話しあいをしている。対応の難しい場合は、保健師さん、子ども相談センター、外部専門家にアドバイスを求めている。

9 運営全般について

ア 個人情報適切に取り扱う上で、行っていること

- ・利用者登録名簿、パソコン、名札など、鍵つきの書庫で管理し、提供された個人情報は、目的外に使用しない。また、写真など個人が特定できるものは、許可なく、SNSなどに掲載しない。

イ 安全対策、衛生管理上、行っていること

- ・上記8イ③④
- ・出入り口、掃き出し窓の前に柵を設置している。
- ・毎回、外遊びのあと、公園で手洗いできるよう準備をしている。また、お昼前後に、出入り口の扉と柵を除菌シートで拭いている。
- ・毎週、すべてのおもちゃを消毒している。

ウ これまで記載したことのほか、自主的に取り組んでいること

- ・スタッフに役立つ本、資料、講座などを見つけ、情報提供している。

10 東日本大震災による避難者支援活動

①避難者ウェルカムDAY 参加者 11組26人

避難者アンケート結果 回答9名

1. 現在のお住まいはどちらですか？

倉敷市	8名	89%
里庄町	1名	11%

避難・移住してどのくらいになりますか？

3か月以内	1名	11%
3か月～半年	名	0%
半年～1年	2名	22%
1年～2年	1名	11%
2年～3年	5名	56%

2. 震災前のお住まいは？

東京都	4名	44%
福島県	1名	11%
神奈川県	1名	11%
茨城県	1名	11%
千葉県	1名	11%
埼玉県	1名	11%

3. 同居の家族構成は？

家族移住	4組	44%
母子避難	5組	56%

4. 幼稚園・保育園・小学校・中学校の情報を教えてください

- ・『倉敷東小学校』 給食の代替えおよび持ち込みOK 牛乳は飲まなくてもいい
- ・『大高幼稚園』 来年度から入園予定
- ・『西阿知小学校』 避難者は1組だけ 給食の先生は良い方だが、特に働きかけはしていない
- ・『西阿知幼稚園』 来年度入園予定
- ・『上成小学校』 教頭先生が親身になってくれる
- ・『里庄中学校』 自校給食、献立は産地公開（献立表に記載されている）制服あり
- ・『奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園』 避難者は1組過去に2組 お弁当 行事やおやつの代替え持参 園の理解と配慮あり
- ・『万寿東小学校』 避難者は1組 給食は代替えなら10時以降に持ってくるように言われている 我が家は食べられない食材を残しています
- ・『万寿東中学校』 避難者は1組
- ・『小谷かなりや保育園』 避難者1組 給食は担任の先生にお願いして、きのこ牛乳を除去してもらっている

5. 今困っていること・しんどいこと・心配なこと

- ・寒いこと
- ・不審者が多い気がする
- ・母子のみなので何かあったときの託児が一番心配。自分が病気になったときがきつい。
- ・西日本の放射能汚染について心配している。子どもたちの内部被曝がすすまないとよいのですが・・・
- ・仕事・生活費・相談相手がいないこと
- ・夫の仕事が始まったあとの生活
- ・お金がない・食費がやばい
- ・保育園に入れたときの給食問題
- ・永住するつもりだったが、義理父が亡くなり親戚関係が難しくなった
- ・自分が病気するとき

6. 岡山にきて苦労やギャップは？

- ・運転のマナーの違い 3名
- ・大人の子どもへの対応
- ・地域性の違い
- ・生活が不安定
- ・土地勘もなく、仕事を探しにくい
- ・方言
- ・ペースを同じくして話せるひとが周りにいない
- ・地元の人が全く知識（放射能）がない
- ・ゴミ捨て場が遠い
- ・ゴミの日が少ない

- ・お金がないので、生活レベルをぐっと下げた
- ・車に慣れない
- ・冬が寒く、夏が暑い
- ・ガス代が高い

7. これからのサポートで望むことは？

- ・避難者がいることを忘れないでほしい
- ・苦労話をゆるゆるとする場がほしい
- ・関東にいる親が病気になったときにヘルプがほしい（どこに頼れば・・・）
- ・野菜をいただけると助かる
- ・公園で遊ばせてあげたい
- ・子どもが友達がほしそう
- ・転職情報
- ・つながりを持てること
- ・相談ができたり、子どもを預けられるところ

8. この先、どこかへの移住や避難を視野に入れていますか？

いる	2名	22%
いない	5名	56%
どちらとも言えない	2名	22%

<いるの理由> 海外・・・2名

- ・岡山がというより、日本という国で生きていくことに疑問がある。
- ・西日本の汚染が進むようなら、子どもの将来のために海外も視野に入れる必要があるかなと思う。子どもだけ行かせる可能性もある。

②相談対応

- ・経済的困窮と就労支援について・・・倉敷市生活自立相談センターに相談と付添
- ・お子さんの進学に伴う転居について・・・家賃など支援してくれる家主さんと調整
- ・避難者支援をしている方との意見交換・・・つながりづくり
- ・福島からの移住相談・・・先方に連絡先を伝え待機
- ・移住者による子育て支援事業実施について・・・見学の受け入れと相談対応
- ・移住者に必要な物資について・・・コーディネート

11 実行委員よりコメント

「子育てひろば なちゅはぐ」は、東日本大震災による避難者支援活動を行っているよりはぐプロジェクトのみなさんが、子育て支援を契機とした避難者と地域の共生をコンセプトとして開設されました。東日本大震災による避難者支援と子育て支援は、それぞれ個別に支援している団体はありますが、両者を関連づけて支援している団体はまだ数が少なく貴重な取り組みといえます。気候の穏やかな岡山にいと、母親たちが孤独を感じながら子育てをしているという危機感のみを考えがちですが、東日本大震災という社会環境の大きな変化を経験された母親の危機感は想像を超えるものだと考えています。

「なちゅはぐ利用アンケート」を拝見し、「こじんまりしていて、他のお母さんとも話しやすい」「子どもの成長を身内以外で見守ってもらえていると実感している」といった回答からは、利用者の満足度を示す項目と言い換えることができます。また、子育て情報を得られていることにも多くの満足度が得られていることから、「なちゅはぐ」には、十分な情報提供機能も備わっていると判断できます。「なちゅはぐ」の利用に対する満足度の高い回答が得られていることは、「なちゅはぐ」の実践を積極的に評価できる材料と言えます。特に多様な人たちと関わることで満足につながっている様子を読み取ることができます。子育て支援を契機とした共生のまちづくりのために、今後の「なちゅはぐ」の実践の継続を期待します。

(倉敷市立短期大学保育学科 准教授 木戸啓子)

なちゅはぐが生まれたきっかけは東日本大震災の避難者を支援するためだが、避難者の課題が一時避難から定住へと変わる中でその取り組みが「子育てしやすい地域づくり」へと向かったのは必然的だった。避難者アンケートの声からわかるように「何かあった時」の不安感が大きいのが、これは身近に頼れる人が少ないことが理由として考えられる。「避難から定住へ」を考える時、避難によって失われた地縁や血縁以外の「縁」をいかに増やすかが課題となっている。利用者アンケートの「顔見知りも増え、私自身も他の人と話すことが増えたので気持ちにゆとりができた」という声に代表されるように、利用者の「縁」をつないで孤立をなくし、共感の笑顔を生むことができているところに大きな価値がある。取り組みのさらなる発展を期待したい。

(くらしきパートナーシップ推進ひろば 代表 佐藤尚宏)

避難者支援の活動から見えてきた課題を解決するために、「子育てひろば なちゅはぐ」を開設されたよりはぐプロジェクトの行動力は素晴らしいと思います。

私がなちゅはぐを高く評価したい点は2点あります。

- ①子どもたちが健やかに育つために、公園を活用し外遊びに重点を置いた活動を展開されたこと。これは子どもの発達という観点から見ても非常に重要と私は考えます。
- ②南中学校区の子育て支援関係者と連携を取るために積極的に動き、たった一年で地域にその存在を根付かせたこと。孤立化する親子を地域ぐるみで支えることの必要性は分かっているにもかかわらず難しいと言われている中、既にその礎が築かれているのではないかと考えます。

なちゅはぐの今後に大いに期待したいと思います。

(NPO法人子育て応援ナビぽっかぽか 理事長 田口陽子)

学区の愛育委員会が運営している子育てサロンが1ヶ所あり、学区内の人たちがよく利用している。その上に子育て支援拠点設立を目指す場合には特色づけが必須であると思う。例えばカウンセリング、読み聞かせ、年齢に合わせたアウトドア活動など、また、特色づけるために日本伝統文化を楽しむ機会、例えば折り紙、お手玉など年齢相応の活動などを時に応じて取り入れることは如何だろうか。

最も望まれることは学区内、地元の強力な協力者、または理解者が得られることと思う。6ヶ月間で報告書のようにできたことは関係者、実施者たちの努力の賜物だろうと思う。

(子育てサロンふわりん 監査 雪吉政子)

震災の避難者支援から始まったよりはぐプロジェクトの活動は、この4年間、その時々に必要な事を、手探りで行ってきました。「子どもたちとすべての命が、健やかに育つように」という、よりはぐの名まえに込めた祈りは、何気ない日々の暮らしの中にあり、ずっと昔から大切にされてきた命のつながりの中にあると、3.11の東日本大震災によって痛感しました。だからこそ日常の中に、人と人が出会い、命をともに育む場所をつくりたい。夜のファミレスでのミーティングを繰り返し、助成事業の狭き門をなんとかくぐり、「子育てひろば なちゅはぐ」は生まれました。まだまだ二葉マークです。少しずつ根を広げ、地域の方々のご縁を大切に育てていきたいと願っています。地域のつながりの中で、子育てを温かく見守っていただいた親子は、いつか、どこかで、誰かが、地域づくりの主体になっていくといいなあと、未来を夢に描いています。

(よりはぐプロジェクト 代表 平尾博美)

12 よりはぐプロジェクトのあゆみ

- 2011年5月22日 東日本大震災にともなう東京電力福島第1原子力発電所事故による被災者のために、避難者と地元住民と一緒に活動を開始した。
募金活動、避難所訪問、各種団体への協力依頼
物資支援
- 9月～ 倉敷市に避難してきた方同士の交流のための「よりはぐカフェ」開催
赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」(ボラサポ) 助成事業
生活や子育てなど暮らしの相談に、関係機関に協力していただき対応
行政などへの必要な支援策等の提案
- 2012年4月～ 活動や情報を伝える通信「よりはぐ便り」を季刊発行 (ボラサポ助成事業)
12月～ 短期保養と移住の下見のための一時滞在住居「ほっ♪とハウスくらしき」
運営
勉強会などでの講演
- 2013年2月・11月 福島県から岡山に避難してきた方の1泊2日の交流会「ほっこりツアー」
開催 (福島県ふるさとふくしま帰還支援事業)
- 2013年5月～ 農作物を育てて福島の親子に送る「寿朗の郷プロジェクト」
- 2014年7月 ドキュメンタリー映画「うまれる」上映会を通じた地域の子育てネットワークづくり (倉敷市市民企画提案事業)
- 7月～ 地元の食材をつかったお料理広場による東日本大震災の避難者を含む地域の子育て支援 (備中県民局去同事業提案採択事業)
- 9月～ 子育てひろば「なちゅはぐ」開設、運営
(独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業)

<団体詳細>

団体名：よりはぐプロジェクト

代表者：平尾 博美

住 所：〒713-8111倉敷市玉島服部2049-2

電 話：090-3635-8607（平尾）

子育てひろば なちゅはぐ

倉敷市沖新町61-1

ブログ：<http://blog.canpan.info/yori-hug/>

E-mail：yori.hug.pj@gmail.com

Facebook、twitter もあります